

授業科目 (科目ID)	日常生活活動Ⅱ 23p311		担当教員 (実務経験)	竹中 謙将 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	1・2年次で履修したADLⅠ・ADL実習を進展させ、臨床応用できるようADLに対するアプローチについて調べ・理解し、説明する機会を設けることで、学習する。					
到達目標	①各疾患の特徴と環境に合わせた動作方法を検討できる。 ②患者を想定した状況で動作介助ができる。 ③車椅子処方ができる。					
テキスト・参考図書等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 姿勢と動作 第3版 ADLその基礎から応用					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	筆記試験70点、実技試験30点の合計100点で評価する。60点以上を合格とし、60点に満たないものは再試験の筆記試験100点中60点以上を合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	より実践的なADLアプローチのためには、詳細な評価と具体的な生活のイメージが重要となる、そのことを念頭において学習を進めること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション				
	2	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する			
	3	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する			
	4	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する			
	5	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する			
	6	介助法の基本	介助の原則を学ぶ			
	7	介助法の基本	介助の原則を学ぶ			
	8	安全な介助法・工夫	片麻痺・対麻痺患者のADLでの介助法を学ぶ			
	9	安全な介助法・工夫	片麻痺・対麻痺患者のADLでの介助法を学ぶ			
	10	車椅子の基礎	車椅子の基礎について学ぶ			
	11	車椅子の基礎	車椅子の基礎について学ぶ			
	12	車椅子の採寸	車椅子の採寸方法について学ぶ			
	13	車椅子の採寸	車椅子の採寸方法について学ぶ			
	14	障害者スポーツ	障害者スポーツの紹介			
15	障害者スポーツ	障害者スポーツの紹介				

授業科目 (科目ID)	義肢装具学 23p312		担当教員 (実務経験)	小野 直也 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	義肢装具の基本を学ぶ。義肢の理解を深める。PTとして義足に関する最近の動向を理解する。手の装具についての理解を深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・切断の意義を説明できる。 ・義肢の役割を機能的に、運動学・運動力学的に説明できる。 					
テキスト・参考図書等	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト義肢学 参考図書:義肢装具のチェックポイント第7版、切断と義肢					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	力学的な視点からの考察が必要となる。具体的にイメージできるように積極的に学ぶこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	義肢学	切断の部位・原因、義足の基礎知識			
	2	義肢学	義足のベンチアライメント、大腿義足のソケット			
	3	義肢学	大腿義足の膝継手・装着部品			
	4	義肢学	大腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメント			
	5	義肢学	大腿義足のダイナミックアライメントと異常歩行			
	6	義肢学	下腿義足のソケット			
	7	義肢学	下腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント			
	8	義肢学	サイム切断、股義足、義足の足部			
	9	義肢学	切断の良肢位保持、幻肢痛について、義足でのADL			
	10	義手学	義手			
	11	装具学	上肢装具			
	12	義肢学	義足の基礎と臨床応用			
	13	義肢学	義足の基礎と臨床応用			
	14	義肢学	義足の基礎と臨床応用			
15	義肢学	義足の基礎と臨床応用				

授業科目 (科目ID)	義肢装具学実習 23p313		担当教員 (実務経験)	武田 祐貴 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	装具に関する基礎的知識と疾患ごとの適応、適合判定について学習する。					
到達目標	①理学療法における装具の意義を理解し、説明できる。 ②疾患ごとの適応を理解し、説明することができる。 ③装具の適合判定を実施できる。					
テキスト・ 参考図書等	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト装具学 参考図書:義肢装具のチェックポイント(第7版)					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	装具は覚えることが多いので、日々集中して取り組むこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	装具総論	装具の定義、歴史、目的等について学習する			
	2	装具総論	装具の定義、歴史、目的等について学習する			
	3	靴型装具	靴型装具、シューインサートなどの構造、種類、特徴について学習し、靴型装具の適合判定について学習する			
	4	靴型装具	靴型装具、シューインサートなどの構造、種類、特徴について学習し、靴型装具の適合判定について学習する			
	5	下肢装具	下肢装具の構造、種類、特徴について学習する			
	6	下肢装具	下肢装具の構造、種類、特徴について学習する			
	7	下肢装具	短下肢装具について学習する			
	8	下肢装具	短下肢装具について学習する			
	9	下肢装具	長下肢装具について学習する			
	10	下肢装具	長下肢装具について学習する			
	11	下肢装具(ロボティクス)	ロボティクスについて学習する			
	12	下肢装具(ロボティクス)	ロボティクスについて学習する			
	13	下肢装具	下肢装具の適合判定について学習する			
	14	下肢装具	下肢装具の適合判定について学習する			
15	上肢装具と自助具	上肢装具と自助具について学習する				

授業科目 (科目ID)	運動器障害理学療法実習 23p314		担当教員 (実務経験)	元木 純 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	各関節の解剖学的特徴から評価・治療を理解し、実習を行なうことで技術の習熟を図り、評価からの裏づけをもとに病態の絞込みと動作・生活との関連、適切な理学療法アプローチについて学ぶ。				
到達目標	1. 運動器疾患に由来する特徴的な症状および障害を踏まえた評価項目を過不足無く選択・実施出来るようになる。 2. 評価結果の統合解釈において、病態の絞込み、動作・生活、各評価間の関連を整理し説明・記述ができる。 3. 問題点に対して根拠を持って理学療法プログラムの立案、リスク管理を説明・記述ができる。				
テキスト・ 参考図書等	筋骨格系のキネシオロジー 第3版 リハビリに直結する！運動器画像の見かた 標準整形外科学 第14版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験にて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	0%			
履修上の 留意事項	・実習中心の授業であるので動きやすい服装で授業に参加すること。 ・運動療法と運動器疾患の復習をして授業に臨むこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	足関節	機能解剖・評価・治療		
	2	足関節	機能解剖・評価・治療		
	3	足関節	機能解剖・評価・治療		
	4	足関節	機能解剖・評価・治療		
	5	膝関節	機能解剖・評価・治療		
	6	膝関節	機能解剖・評価・治療		
	7	膝関節	機能解剖・評価・治療		
	8	膝関節	機能解剖・評価・治療		
	9	股関節	機能解剖・評価・治療		
	10	股関節	機能解剖・評価・治療		
	11	股関節	機能解剖・評価・治療		
	12	腰部	機能解剖・評価・治療		
	13	腰部	機能解剖・評価・治療		
	14	腰部	機能解剖・評価・治療		
15	腰部	機能解剖・評価・治療			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	肩関節	機能解剖・評価・治療
	17	肩関節	機能解剖・評価・治療
	18	肩関節	機能解剖・評価・治療
	19	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	20	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	21	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	22	機能的エクササイズ	機能的視点からの評価とエクササイズの実際(ダイナミックアライメントの捉え方、メニュー作成など)、サーキットトレーニング・コンディショニングの実際
	23	機能的エクササイズ	機能的視点からの評価とエクササイズの実際(ダイナミックアライメントの捉え方、メニュー作成など)、サーキットトレーニング・コンディショニングの実際

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学

理学療法学科

授業科目 (科目ID)	発達障害理学療法学 23p316		担当教員 (実務経験)	樋室 伸顕 市内医科大学で小児分野の研究・教育・臨床活動にて 10年以上勤務	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	発達障害児に対する理学療法の考え方、および療育における理学療法の役割を理解できる				
到達目標	1)小児における理学療法評価の項目を列挙し説明できる。2)正常発達の理解を基に異常運動発達を説明できる。3)脳性麻痺のタイプ別特徴を理解し分類できる。4)脳性麻痺における各種介入を理解し説明できる。5)筋ジストロフィー症や染色体異常、小児整形外科疾患の特徴を理解し説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	教科書 Crosslink 理学療法テキスト 小児理学療法学				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	授業中の態度が不良な学生に対しては厳しい対応をする。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	発達障害理学療法総論(1)	発達障害と療育		
	2	発達障害理学療法総論(2)	エビデンスに基づいた臨床意思決定		
	3	正常発達と異常発達(1)	運動発達の捉え方		
	4	正常発達と異常発達(2)	赤ちゃんの運動発達		
	5	脳性麻痺とは	その臨床的特徴		
	6	脳性麻痺の理学療法(1)	理学療法評価のいとぐち		
	7	脳性麻痺の理学療法(2)	理学療法評価-1		
	8	脳性麻痺の理学療法(3)	理学療法評価-2		
	9	脳性麻痺の理学療法(4)	理学療法介入		
	10	脳性麻痺の理学療法(5)	理学療法の実際・まとめ		
	11	小児神経筋疾患	筋ジストロフィーに対する理学療法		
	12	小児神経筋疾患	筋ジストロフィーに対する理学療法		
	13	小児整形外科疾患	二分脊椎、ペルテス病等に対する理学療法		
	14	精神運動発達遅滞と染色体異常	ダウン症候群、発達障害等に対する理学療法		
15	重症心身障害	重症心身障害に対する理学療法			

授業科目 (科目ID)	内部障害理学療法実習 23p317		担当教員 (実務経験)	竹中 謙将 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	呼吸理学療法の基本から応用までを理解する。 循環器理学療法の基本から応用までを理解する					
到達目標	呼吸機能・循環機能障害について理解し、検査法および評価法・治療法を身につける。					
テキスト・参考図書等	フィジカルアセスメント完全攻略Book 最新理学療法実習講座 内部障害理学療法 病気が見える 循環器 第5版 病気が見える 呼吸器 第4版 心電図ドリル 新装版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	前期、後期試験共に合格すること 前期・後期の定期試験100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	解剖学や生理学などの基礎知識が重要な科目なので、十分復習して取り組むこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・循環器の解剖・生理学	オリエンテーション、解剖・生理学について復習をする			
	2	不整脈・心電図	不整脈に対する考え方・対応方法を学習する			
	3	不整脈・心電図	不整脈に対する考え方・対応方法を学習する			
	4	虚血性心疾患	心筋梗塞・狭心症の理学療法について学習する			
	5	虚血性心疾患	心筋梗塞・狭心症の理学療法について学習する			
	6	心不全	心不全の理学療法について学習する			
	7	心不全	心不全の理学療法について学習する			
	8	症例検討	心疾患の症例検討を実施する			
	9	運動耐容能	運動耐容能を評価する必要性を知る・運動処方への考え方を理解できる			
	10	大動脈疾患・末梢循環疾患	大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症の理学療法について学習する			
	11	呼吸器疾患の病態と治療	呼吸器疾患の病態・治療法について学習する			
	12	呼吸器疾患の病態と治療	呼吸器疾患の病態・治療法について学習する			
	13	呼吸理学療法における評価	評価の手順目的を学習する。評価における理学所見の診察に関し、肺野と胸郭の位置関係を学習する			
	14	呼吸理学療法における評価	評価の手順目的を学習する。評価における理学所見の診察に関し、肺野と胸郭の位置関係を学習する			
15	呼吸理学療法の手技	各手技の理論と実技を学習する。				

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	呼吸理学療法の手技	各手技の理論と実技を学習する。
	17	呼吸理学療法の手技	人工呼吸療法について学習する
	18	呼吸理学療法の手技	人工呼吸療法について学習する
	19	気管吸引について	気管吸引の実施、リスク管理について学習する
	20	実際の呼吸器疾患に対する評価・治療について	代表的な呼吸器疾患の病態、理学療法評価、治療について学習する
	21	実際の呼吸器疾患に対する評価・治療について	代表的な呼吸器疾患の病態、理学療法評価、治療について学習する
	22	悪性腫瘍	悪性腫瘍についての総論と理学療法
	23	悪性腫瘍	悪性腫瘍についての総論と理学療法

授業科目 (科目ID)	老年期理学療法学 23p318		担当教員 (実務経験)	横野 裕行 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	高齢者に対する理学療法に必要なリスク管理を理解するために、高齢者の身体機能・心理の特徴、高齢者に多い疾患を理解し臨床的応用について学ぶ。					
到達目標	・加齢による身体的、心理社会的変化について学習する。・加齢による諸変化(身体的、心理社会的)について説明できる。 ・加齢が運動機能に及ぼす影響について説明できる。・高齢者に対する安全で効果的な理学療法について説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学作業療法学 老年学 第5版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	高齢者に生じる様々な特徴を理解するために、生理学をはじめ、1、2年次に学習したことを各自振り返ること					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・高齢者とは～グループワーク～	オリエンテーション、「高齢者」についてグループで学習する			
	2	高齢者とは～グループワーク～	「高齢者」についてグループで学習する			
	3	高齢者とは～発表～	「高齢者」についてグループで発表する			
	4	高齢者の疫学とPTの関わり	我が国の高齢者の状況・環境を知る 理学療法士は高齢者に何が出来るのか考える			
	5	加齢による身体の変化①	加齢により、生理的・身体的にどのような変化が生じるかを学ぶ			
	6	加齢による身体の変化②	加齢により、機能面・認知機能にどのような変化が生じるかを学ぶ			
	7	老年症候群①	老年症候群の概念、代表的な老年症候群について理解する			
	8	老年症候群②	フレイル・サルコペニア・低栄養について学ぶ			
	9	老年症候群②～体験～	フレイル・サルコペニア・低栄養について、検査・評価を経験する			
	10	老年症候群③	転倒・廃用症候群について理解する			
	11	高齢者に特徴的な疾患①	高齢者に特徴的な骨・運動器疾患、ロコモ・運動器不安定症について学ぶ			
	12	高齢者に特徴的な疾患①～体験～	ロコモ・運動器不安定症について、検査・評価を経験する			
	13	高齢者に特徴的な疾患②	高齢者に特徴的な呼吸・循環器・神経疾患について学ぶ			
	14	高齢者に特徴的な疾患③	高齢者に特徴的な消化器疾患・外科的治療について学ぶ			
	15	高齢者の退院支援・地域リハ・最終段階における医療	高齢者の在宅医療、終末期における医療において、理学療法士ができることについて学ぶ			

授業科目 (科目ID)	スポーツ理学療法学 23p319		担当教員 (実務経験)	綿谷 美佐子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院等で理学療法士として20年以上勤務		
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	スポーツ障害・外傷の理学療法領域における、外傷・障害の一般的な評価～治療までの流れと、実際の現場での理学療法士の取り組み、関わりについて理解する。					
到達目標	スポーツ障害・外傷における、その発生要因および誘因、特徴的な症状、スポーツ理学療法における検査、受傷・発症のメカニズム、治療・留意すべき点について、根拠を持って説明・記述できる。					
テキスト・参考図書等	臨床スポーツ医学					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験にて評価する			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	・解剖学、生理学、運動学の復習をして授業に臨むこと。・積極的に質問し、知識を吸収する姿勢で臨むこと。・動きやすく実技にしやすい服装で受講すること。・授業態度の不良な者は厳しい対応をする。・医療人としての適正及び態度が不適な者、学習意欲のない者は授業への参加を認めない。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	2	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	3	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	4	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	5	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	6	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	7	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	8	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	9	頭部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頭部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	10	頭部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頭部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	11	頭部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頭部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	12	頭部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頭部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	13	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
	14	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス			
15	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、トピックス				

授業科目 (科目ID)	スポーツ理学療法学 23p319	担当教員 (実務経験)	松本 尚 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院で理学療法士として20年以上勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員	伊藤 雄
授業形態	演習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院で理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	石田 知也
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員	三上 兼太郎
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員	藤原 誠嗣
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内総合病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	本村 遼介
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	生活環境論 23p320		担当教員 (実務経験)	竹中 謙将 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	障害者・高齢者の生活を支援するために、社会・文化のおよび物的・人的環境の視点から包括的にハンディキャップを捉えるための基本的知識について学ぶ。さらに、住環境の評価と物的改善技術の知識、他分野の役割と関連について学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具について説明できる。 ・障害者の環境設定について考えることができる。 					
テキスト・参考図書等	配布資料 参考図書:生活環境論 OT・PTのための住環境整備論 第2版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート等の提出物及び内容により評価する。 A: 全て提出し、内容が充分 B: 1度の提出遅れ、内容が充分 C: 2度の提出遅れ、内容が充分 D: 3度以上の提出遅れ、又は内容不十分 ※ どのケースにも該当しない場合は精査し、該当学生へ伝える。			
	レポート	60%				
	小テスト	%				
	提出物	40%				
その他	0%					
履修上の留意事項	実習や体験学習の多い学科なので、自ら学ぼうという姿勢を忘れずに授業に臨むこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション				
	2	環境整備の基本的考え方	・ノーマライゼーション、バリアフリー、・環境整備の個別性と汎用性、・他職種の役割と連携			
	3	高齢者・障害者の生活特性と環境整備	・加齢の身体特性、・視覚障害、聴覚障害、・移動能力別にみた環境整備			
	4	住宅改造の基本的知識	・建築面の基礎知識、・疾患別にみた整備指導			
	5	間取り図の作成	・図面の基礎知識、・間取り図の作成演習			
	6	福祉機器の見学	・福祉機器の展示場を見学する			
	7	福祉機器の見学	・福祉機器の展示場を見学する			
	8	福祉車両の見学	・福祉車両の展示場を見学する			
	9	福祉車両の見学	・福祉車両の展示場を見学する			
	10	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅			
	11	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅			
	12	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅			
	13	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅			
	14	日常生活用具	・日常生活用具、自助具について学習する			
15	日常生活用具	・日常生活用具、自助具について学習する				

授業科目 (科目ID)	臨床実習Ⅱ 23p321	担当教員 (実務経験)	浜本 浩一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	3年・後期	担当教員 (実務経験)	小野 直也 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内回復期病院にて理学療法士として5年勤務
授業形態	実習	担当教員 (実務経験)	武田 祐貴 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員 (実務経験)	江戸 香苗 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員 (実務経験)	元木 純 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 (実務経験)	横野 裕行 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 (実務経験)	吉田 智子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	山内 真帆 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で理学療法士として11年勤務
		担当教員 (実務経験)	吉田 香織 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	